

## 解答

前者は西洋の物と心を分離した考え方であり、後者は日本古来の物と心を区別しない世界観という違いがある。

問一 イエイイ  
問二 エイイ  
問三 エイイ  
問四 エイイ  
問五 エイイ  
問六 エイイ

問一 エイイ  
問二 エイイ  
問三 エイイ  
問四 エイイ  
問五 エイイ  
問六 エイイ

生きるものには領分があり、それぞれがふさわしい場所で生きて行くということ。  
 ① 真 晴耕雨読  
 ② 朗報 Ⅱ ア 心機一転  
 ③ 小康 イ 起死回生  
 ④ 粉 ウ 前代未聞  
 ⑤ 勇 オ  
 ⑥ 工面  
 ⑦ 街頭  
 ⑧ 奮行

三

問一

オイエ

ア

×

イ

○

ウ

×

エ

○

オ

○

## 解説

一

問四

「経済状況が豊かで、食生活は貧困」について説明しているところに着目します。適当にものが不足してい  
た昔とは違つて「おいしい」と感じられる食生活の機会が少ないことや、働くために時間を節約することで、  
「貧困な食事」になってしまふことなどから選択肢が選べます。

問六

本文では、西洋の物質文明と日本の古来の精神について述べています。——線4は、心と物の明確な区別と  
いう前提に立つてゐる西洋の考え方について、——線5は、ものどころを区別しない世界観である日本の  
伝統的な考え方について説明します。

二

問五

——線3を含む和尚の話に着目すると、「攝理とは仏の意思だ。」以降の部分で「自然の攝理」とはどういう  
ことかについて述べられているので、わかりやすくまとめます。

問六

本文全体の和尚とノブヒコとのやりとりに着目します。和尚が六歳の子であるノブヒコの言葉遣いに厳しい  
ことや、ノブヒコが和尚に命じられた用事をすべてこなさなくてはならなかつたり、和尚の話のすべてを理  
解することはできなかつた様子などから、選択肢ウが最も適當です。